

「**DEI**」**AREA053** ついに入居開始！
NEWS02」**3スパンの広々タイプも初公開！！**



十分なスペースのガレージ空間を持つ3スパン間口タイプのGLB（ガレージ・リビング・ベッド）。シャッターを開けた時らせん階段の上方から差し込む光で程よい陰影を楽しむことができる。玄関ドアまわりも当然広い。シェア賃貸で気の合ったグループの工房やスタジオとしても利用価値大です。

AREA053が遂に9月末堂々完成。すでに入居契約が始まっています。3棟合計25世帯。クルマ好き、バイク好きの入居が完了したときに初めて構築される、新しいコミュニティの完成が今から楽しみなものです。AREA053には2世帯分だけですが、通常より広い間口「3スパン」のタイプが設定されています。ガレージは2スパン×4スパン＝8坪、26㎡がまるまるガレージ空間です。



から、大型車とバイク3台は優に格納可能です。らせん階段もうれしい設定。その隣にはスペアタイヤやオイル類も格納可能なストレージ付きです。スタンダードの部屋が間口2スパンのところ、こちらは間口3スパンですから1.5倍のスペース取りになっています。これで家賃の差は約1万円。お得というほかありません。もちろん2F空間も充実しています。階段が独立型のらせん階段ですから室内空間は26㎡まるまる使えた上に、水まわりと階段で13㎡。さらにロフト空間も設定しています。今後、GLBの建築をご検討される方は、間口2スパンだけではなく3スパンのタイプも視野に入れていただくことをお勧めします。十分家族でも住める広さなのです。



9世帯のガレージがすうらりと並んだ外観。シャッターにはステンシルのナンバリングが施される予定で、さながらサンダーバード2号の出撃基地の様相。側面のR形状とグラフィックも格納庫／HANGERをイメージさせてくれるもの。まさに出撃気分が味わえるアパートなのです。



AREA 053 www.daytona-house.com/area053
area053.site[DAYTONA HOUSE HOKKAIDO]



「**DEI**」**ファンが集いと個別物件説明会が開催されました**
NEWS04」**in福岡**

クルマ好き、バイク好きの多い地域として知られる福岡市で、去る9月11日デイトナハウスファンミーティングが開催されました。（主催：デイトナハウス福岡）それぞれ自宅やアパートの計画をされているお施主さんの集まりです。個別相談会の後の懇親会ではボルテージは急上昇。お客様同士が互いの計画するデイトナハウスのことやクルマ、バイクの話で大いに盛り上がりました。互いにSNSのアドレス交換なども行われ最後は和やかに記念撮影。建築計画の疑問点や不安をその場で解決すると同時に、ムーブメントのエネルギーを実感することができる有意義な場。今後も企画していきます。

「**DEI**」**来春の北海道ツーリングが楽しくなりそう!? デイトナハウスが『レンタル819』とコラボ!**
NEWS03

静かなブームになり始めているレンタルバイクでのツーリング。そのリーディングカンパニーである『レンタル819』と『デイトナハウス』が来春に向けてのコラボレーション企画を始動！たとえば苫小牧AREA053を出撃基地として道南をめぐるバイクの旅。ニセコ、羊蹄山、洞爺湖、登別温泉、函館など。身体一つで千歳空港に到着すれば、送迎バス30分でAREA053へ。電動シャッターを開ければ、そこに旅のお供であるバイクたちが待っている。その日はAREA053で英気を養い、翌日早朝出撃するという冒険なのです。他にもデイトナハウスが

企画しているモーターホテルを、独自の観点でツーリングルート上で建設していく予定も。まさに、新しいモーターライフの幕開けとも呼べる、企画を検討中です。乞うご期待。



恐竜の背骨のような力強い凹凸感と暮らす喜び
らせん階段は一体空間を大切に作るモダンな建物においては、とても重宝なもの。廊下を設定する必要がないので省スペースにも寄与し、そして何よりも、現代の大黒柱とも言えるその存在感が、空間のメリハリを演出してくれます。そのため、設計過程ではつい「らせん階段を提案するのですが、問題はその価格。というのも、らせん階段を製作する鉄骨

ついにデイトナオリジナルで登場 日本初の分解式 スチールらせん階段

今月のデイトナ不動産では、現在開発中の新機軸のらせん階段のご紹介からスタート。他にも色々とプロジェクトが進行中です。

屋さんが年々減少しているからです。需要が高まっているのに生産側が減少する。必然的に値段は、いい値になっていくのです。実に悩ましい問題でありました。特に手すりの3次元曲線の製作と溶接のむずかしさが価格アップに拍車をかけていました。とはいえ、デイトナハウスは、らせん階段をあきらめるわけにはいきません。無いものなら作ってしまう、それがデイトナスピリット。価格の高騰の原因になっている部分を抽出し、その解決法として分解式のらせん階段



SPIRAL STAIRCASE
Digestion System
Made of Steel

建設中のガレージ空間に屹立するプロトタイプのらせん階段。LGSパネルとの相性はもちろん完璧です。ガレージ内の愛するクルマやバイクとも共鳴すること間違い無し！床の素材による階高の変化にも均等割り付けで対応できるので、設計事務所や現場監督さんにも優しい階段なのです。

を開発しました。パーツが小さいのでこの階段製作には広い作業スペースは必要としません。良いことづくめのうえに、独特の力感がなんともカッコイイ。まさに、武骨です。塗装もその意味ではこの商品のイメージに直結していて、ご存知艶消し黒のパウダーコーティングです。ペンキ塗りだとしても艶が出て、この恐竜の背骨感が出ません。手すりはステップごとに門型に設置した丸パイプですが、革バンドで相互に緊結する予定。皮と鉄。これまた新たな取り合わせです。

どうですか？ 欲しくなりませんか？ 気になる価格は、キット価格でワンフロアー55万円を予定しています。



Text/Atsushi TAMADA Photo/Yumi SATO(city digit)



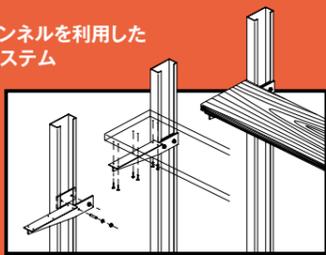
地上からのクリアランスがある独特のフォルム。高床式のデッキスペースがリビング空間やガレージと連続することで、どこまでも伸びやかな開放性を感じさせてくれるのです。



リビング空間とガレージが、ガラス間仕切りを通して一体になっており、さらに外部のウッドデッキとも連続されている空間の伸びやかさがよくわかる。デイトナハウスの提案するライフスタイルそのもののカット。

LGSパネルのCチャンネルを利用した壁面アタッチメントシステム

デイトナハウスのLGSパネルは、艶消し黒のパウダーコーティング。その素材感は秀逸ですが、図のようなアタッチメントシステムで自由自在に棚や収納を設置できるシステムになっています。*構造なのに家具である*とはこのことです。



SCALE 縦横比率が分かる立面図で必要な土地面積をチェック!

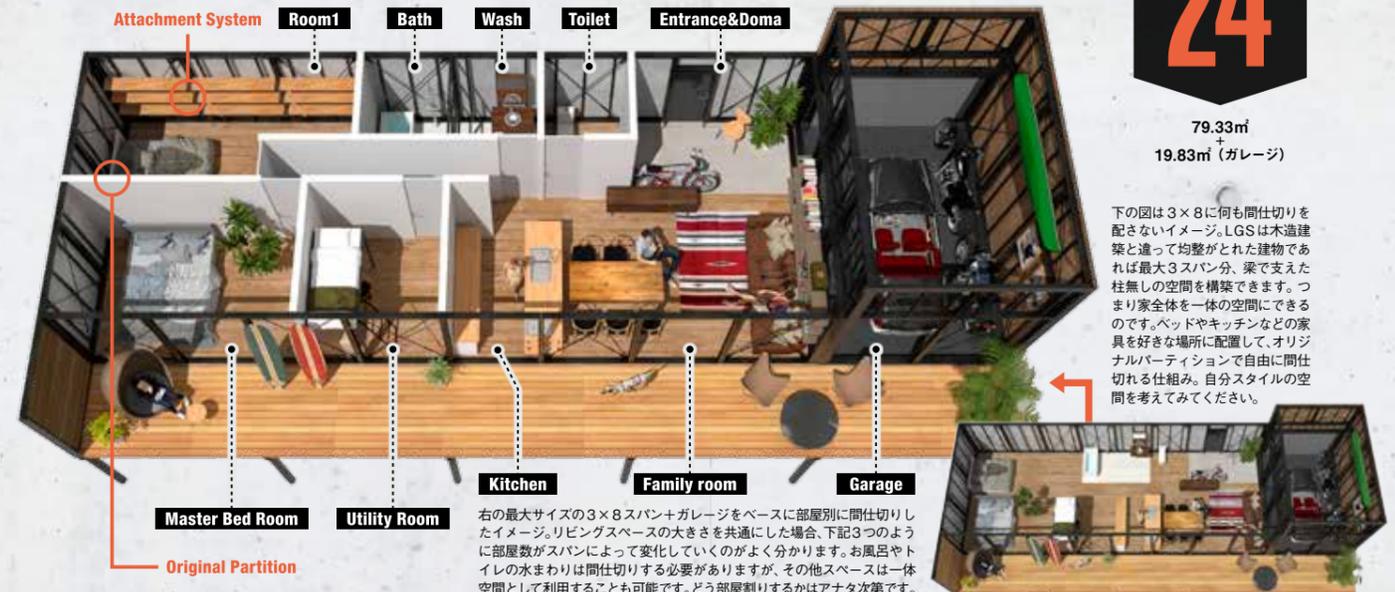


タイプ別のプロポーションがよくわかる立面図。フォルムデザインのポイントは、縦横比率と突起のバランス。京都龍安寺の石庭の石のように縦の突起と横への伸びを表現したカタチが日本人の心にスッとおさまる。高床なのでさらにそのフォルムが際立つのです。

Theme

空中にふわりと浮かび上がった平屋 遂にタイプ別商品化に着手!

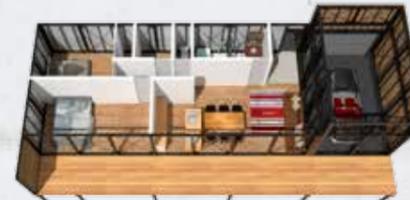
自分の予算や生活スタイルに応じ、パネルの枚数を調整できるのがデイトナハウスの特徴。今回は商品化を予定している平屋を参考に、自分に必要なパネル枚数をイメージしてみてください。



右の最大サイズの3×8スパン+ガレージをベースに部屋別に間仕切りしたイメージ。リビングスペースの大きさを共通にした場合、下記3つのように部屋数がスパンによって変化していくのがよく分かります。お風呂やトイレの水まわりは間仕切りする必要がありますが、その他スペースは一体空間として利用することも可能です。どう部屋割りするかはアナタ次第です。

[3枚×7枚] 21 PANELS

69.4㎡ + 19.8㎡ (ガレージ)



たとえば、子供が小さい間は寝室空間を一体にして、部屋が必要になればオリジナルパーティションで分けてしまうのもアリです。そう考えると本当に必要なスパンが見えてきます。

[3枚×6枚] 18 PANELS

59.5㎡ + 19.8㎡ (ガレージ)



こちらは2人暮らしにちょうど良いプラン。因みにパーティションは、いろんなテイストの壁を作りますが、その最上部は抜けています。そのことで、天井が一体に見えるのです。

[3枚×5枚] 15 PANELS

49.5㎡ + 19.8㎡ (ガレージ)



最もコンパクトな5スパンタイプになると、生活に"必要"なスペースが一気に際立って見えてきます。それでも外に伸びる庇とウッドデッキが伸びやかな空間を感じさせてくれます。

INFORMATION LDKinc.

デイトナをはじめ、カーマガジンの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

代表: 玉田 敦士
WEB: www.ldk.co.jp
TEL: 03-6228-4933

DAYTONA HOUSE OFFICIAL HP
www.daytona-house.com

し。また家族4人の楽しい暮らしまで、いろいろ対応できます。

この建物は所謂コンクリートの基礎を使用しません。スパイクのように打ち込んだ鋼管杭「スパイクLGS」を地上まで伸ばし、その上にトラックのシャシーのような鉄骨土台を回して、LGSパネルを設置します。そうして浮かび上がらせることで平屋のフォルムが際立つのです。

右ページで提示しているイメージ図には、固定された白い壁の様な間仕切りがある印象ですが、実際これは特殊なパーティションシステムになっています。つまり、どのように間仕切るかは思いのまま。もしパーティションはいらないって人なら、最初から付けないってことも可能です。それと同時にLGSパネルを利用して、スタイリッシュな壁収納をシステム化することもできます。ガレージにはオプションですが、デイトナ読者には必需品。間口2スパン×3スパンですが背が高く、上部はロフト状の収納スペースになっています。

構造なのに家具でもある。これがこのシステム最大の特長です。この規格住宅のリリースは、本年11月を予定しています。ご期待ください。

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk); Soma YOKOI

What's Daytona House?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGSパネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およびその予算がイメージできる分りやすさと、パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

